

分野： (1) 小児・成人ぜん息に関する調査  
(2) 高齢者を含む成人ぜん息患者の個別化治療を目指した治療実態の把握及び効果的な治療・療養方法の策定

(1) - (2)

申請課題名： 高齢者を含む成人ぜん息患者の個別化治療を目指した治療実態の把握及び効果的な治療・療養方法の策定

調査研究代表者氏名： 鈴川 真穂

1 評価項目						
5点: 大変優れている(A判定) 4点: 優れている(B判定) 3点: 普通(C判定) 2点: やや劣っている(D判定) 1点: 劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	1人	2人	2人	0人	0人	3.80
(3) 研究計画の妥当性	1人	4人	0人	0人	0人	4.20
個別評価(第3評価): (2)(3)の平均						4.00
(6) 総合評価(第2評価)	1人	2人	2人	0人	0人	3.80
全体評価(第1評価): (2)(3)(6)の平均						3.93

## 2 記述評価

- ・高齢者ぜん息に対する具体的な介入方法がまだ見えてこない。
- ・療養環境の実態解析を急ぎ、最終年度にはクラスター別の個別治療介入を示してもらいたい。
- ・非常に多くのデータが得られているが、クラスター解析の結果にはそのデータが十分に反映されていないと思う。高齢者ぜん息と成人ぜん息との間でどのような違いを検出しようとしているのか、根本的に病態に違いがあると考えているのか、治療の選択に役立つ内容を反映するクラスター解析を考えるとどのようなアプローチが妥当かなど、出発点で本研究の目指す方向を整理して解析を進めないと、折角のデータを生かすことができないと考えられる。
- ・研究の進展を期待する。
- ・個別化というよりは、むしろ、いわゆるクラスター解析であるが、クラスターごとに、それなりの成果が得られている。ただし、先行研究との兼ね合いにおいて。
- ・高齢者ぜん息治療などの手引きについての方向性については、具体的にどのように考えているか、想定しているか。
- ・高齢者ぜん息に特有の問題点を明らかにしつつある。なお「治療・管理ガイドライン」として発表する場合は、関係学会(アレルギー学会、老年医学会など)への連絡が望ましいと思われる。
- ・研究目的の一つである高齢者ぜん息の特徴及び問題点を明らかにすることは進捗していると評価するが、治療・管理ガイドラインの策定まで到達するのは困難ではないか。ガイドライン策定に必要なエビデンスのうちで本研究の成果として得られるものと得られないものを整理して、ガイドライン策定までの道筋を具体的に示してほしい。